

率直な意見交換を通じて関係を強化 ～ 海技教育機構と内航海運事業者の情報交換会を開催～

日本船主協会は、2008年7月に「人材確保タスクフォース(TF)」を設置し、優秀な日本人船員(海技者)確保のための広報活動を行っているが、内航関係については同TFの中に「内航ワーキンググループ(WG)」を置いて対応を進めている。

この度、当協会は、内航WGが中心となって、海技教育機構本部及び傘下の海上技術学校、海上技術短期大学校、及び海技大学校の教員と、当協会会員の内航海運事業者がお互いの状況等について率直に意見交換する「情報交換会」を東京と神戸で開催した。



東京会場の模様

今年で3回目を迎える情報交換会は、これまで同様に東京(日本船主協会会議室)と神戸(海技大学校会議室)の2会場で実施し、6月7日開催の東京会場には、海技教育機構



神戸会場の模様

本部、口之津及び唐津の海上技術学校、波方海上技術短期大学校、海技大学校の教員と内航船社16社から24名が参加。一方、同11日開催の神戸会場には、海技教育機構本部、小樽及び館山の海上技術学校、宮古及び清水の海上技術短期大学校、海技大学校の教員と、内航事業者12社から17名が参加した。

情報交換会では、まず、内航各社から自社の現状や船員事情、新人船員の育成プロセス等が説明されるとともに、「コミュニケーション力」、「快活さ」、「協調性」、「忍耐力」等、各社が新人船員の採用にあたって重視する資質が示された。次に、機構各校から、学生の状況や近年の就職状況等が報告されるとともに、それぞれの指導方針等について説明があった。

その後、双方の説明を踏まえた質疑応答等が行われ、将来の内航海運業界を支える優秀な新人船員の養成に向け、引き続き連携強化に取り組む必要性を確認して終了した。



情報交換会終了後には懇親会を開催
(写真は神戸会場)

日本船主協会では、来年度以降もこの情報交換会を継続して開催していく。